

瑞穂町教育委員会
教育長 鳥海 俊身 様

瑞穂町立瑞穂第一小学校
校長 石坂 隆文
(公印省略)

令和5年度 学校評価報告書

1 自己評価

(1) 評価及び成果と課題

評価項目	評価	R4評価	成果	課題
1 学力向上	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研の成果を活かして、言語能力の向上、特に書くことが日常の習慣になり、学力向上ができた。 ・通年でeラーニングを活用して、繰り返し復習することにより基礎力の向上につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力の不足から思いを十分に書けないこともあった。語彙力、読解力の向上で書く能力を向上させたい。 ・国・町の学力調査では、平均点に届いていない教科・学年もあり、自ら問題を解決する力を身に付けさせる。
2 健康・体力	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・マラソン週間や縄跳び週間などの全校的な運動への取組と継続的な運動指導により、運動することが日常化した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストでの課題が学年や項目ごとに異なり、それを意識した指導をさらに意識付ける。
3 道徳教育	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで議論し、考える部分に焦点をあてた道徳授業を要とした人権教育の推進することができた。「みずほあったか先生」の実践を意識して、教師が率先して道徳や人権を大切にする姿勢を示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・議論の仕方やまとめ方など、教材、学級・学年の実態に合わせてよりよい方法を考えさせたい。
4 特別支援教育	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童の実態、発達段階等に応じた指導、支援ができた。 ・校内別室指導を行い、担当者による寄り添いで、個に応じた指導・支援を行った。 ・特別支援コーディネーターを中心に支援を要する児童の対応を組織的に行うことができてよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた児童の課題と支援策を学校と保護者で共通の認識をもつことに、保護者への伝え方等に十分な配慮を要する。 ・校内個別指導への職員の動員態勢を確保する時間的な課題がある。
5 生活指導	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関する研修を実施することで、全職員がいじめの早期発見を意識して、未然にいじめを防ぐことができた。 ・高学年を中心とした交換授業を実施して、複数の目で児童を指導する体制とした。 ・一小SNSルールを、児童、保護者とともに作成し、家庭と協力して情報モラルへの意識を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・件数は減ったもののいじめは依然としてあり、いじめ撲滅へのさらなる方策をとる必要がある。 ・教科ごとの時数や専門性などを考慮し、授業を交換する体制を整える必要がある。 ・一小SNSルールの意識されて運用されているかを検証しながら進捗状況を確認する。

6	研修・研究	B	A	<p>・昨年度の国語の「読むこと」での研究発表の成果を受け、「書くこと」へ成果と課題を引き継いで、研究に取り組むことができた。</p> <p>・一人一台のタブレット端末を活用した指導をして、個に応じた学習に対応することができた。</p> <p>・月1回以上のミニOJTを実施し、教員間の自発的な授業力の向上に繋がった。</p>	<p>・『書くこと』は、難易度も高く、個人差も大きい部分であり、継続的な研究、検証していく。</p> <p>・タブレット端末の利用率が学級により異なり、学年の状況に応じて利用頻度を均一にする。</p>
7	家庭・地域の連携	A	A	<p>・町行事、大会等へ積極的な参加を促すことができた。</p> <p>・新規人材の開拓を含めて、地域人材、教材の積極活用ができた。</p> <p>・5年生花植え活動等地域に対する愛着を深めることができた。</p> <p>・民生児童委員との情報交換会、学校運営連絡協議会(毎学期)を行った。</p>	<p>・新規の人材、教材発掘を行ったが、人材、教材の活用には学年によって差があるので、郷土資料館、図書館との連携の中で、更にを進めていく必要がある。</p>
8	経営・組織	A	A	<p>・職層を中心とした学校経営により個人への過度な負担が減るとともに、超過勤務時間が減り、働き方改革につながった。</p>	<p>・超過勤務は減ったが、授業の準備や分掌での停滞等がないか組織的に確認していく。また、超過勤務は減ったとはいえ、勤務時間を大幅に超える教員もおり、働き方改革を継続していく。</p>

2 学校関係者評価

(1) 主な活動

月日	会場	協議会内容等
令和5年7月18日	瑞穂第一小学校図書室	令和4年度活動内容 学校経営方針 等
令和5年12月20日	瑞穂第一小学校図書室	教育活動報告 学校評価方法確認 等
令和6年3月7日	瑞穂第一小学校図書室	学校評価結果と改善策の説明 等

(2) 委員の構成

職名	氏名	所属等
1 評価委員長	榎本 修一	第一小学校PTA会長
2 評価副委員長	森 美佐子	主任児童委員
3 評価委員	粕谷 道子	瑞穂町保護司
4 評価委員	飯田 祐子	民生児童委員
5 評価委員	船越 拓真	箱根ヶ崎駐在所
6 評価委員	林 義昭	中三丁目会長
7 評価委員	坪井 健治	石畑自治会 会長

(3) 学校関係者評価で出た主な意見等

<ul style="list-style-type: none"> ・学校の外での挨拶が出来る児童が多く、よい傾向にある。今後とも継続したい。 ・交通ルールを守って安全を心がける児童は多いが、一部でものすごい勢いで自転車に乗ったり、横断歩道のない道路を横切ったりする児童がある。学校や家庭、地域で協力して指導していきたい。 ・学校の雰囲気は昨年度より落ち着いている。不登校の児童も減っている。 ・職員の研修が盛んに行われており、学校がよりよい教育活動にしたと取り組んでいることがわかる。 ・生活指導について、先生方は熱心に取り組んでいるが、指導がなかなか反映できないこともある。さらなる家庭、地域との連携も必要である。 ・学校へのニーズが多くなり、先生方への過度な負担が気がかりなことがある。

3 今年度の学校経営計画の実現状況について

重点事項 1	学力向上
(1)取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○言語活動(書くこと)の充実 意見、感想 ○課題設定とまとめ指導の充実 ○繰り返し学習、ミニテストの充実 ○eラーニング活用 ○学習ルール、めあてのめたせ方の工夫
(2)成果	<ul style="list-style-type: none"> ○考えを書く活動を意図的に取っている。主語、述語が対応している。 ○通年でeラーニング活用 全学年 3年以上、国社算理(外)活用 ○導入時にICT等を積極的に活用
(3)課題	<ul style="list-style-type: none"> ○語彙数不足 題材選び、構成指導 ○探求型学習 指導の展開
(4)次年度に向けての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○学年ごとに系統的な書き方について、基本形を示した指導 ○先行事例を参考にした指導計画の細案構築と実践
重点事項 2	生活指導
(1)取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止、早期発見 児童会取組 (校内職員)いじめ発見 見える化 ○不登校対応 支援員、別室対応 ○SNS情報モラル指導 ルールメイキング
(2)成果	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の人権意識向上 肯定的な声掛け増 いじめアンケートの扱い 手引き作成 ○対象児童、家庭と良好な関係 ○SNS情報モラルのルールを明文化(細分は学級や家庭)
(3)課題	○学年ブロック等

	を中心とした 組織的な対応 ○別室指導の 充実 ○SNS活用の 低年齢化
(4)次年度に向けての改善策	○高学年を中心とした 副担任制(教科担任 制実施) ○校内別室指導 担当者による寄り添い 方法、内容の構築 (都施策) ○SNS統一ルールの 周知徹底
重点事項 3	家庭・地域の連携
(1)取組状況	○みずほ学の系統的な テーマに沿った指導 学校、学校周辺、瑞穂町 福祉と安全、町のよさ(町づくり、歴史、他地域 比較) 学期に1回以上、地域の 方を講師招、もしくは校外 学習を実施
(2)成果	○地域に関心をもつ児童 が増加 ○学校外の教育コンクール に意欲的に参加
(3)課題	○学習内容の 発信
(4)次年度に向けての改善策	○学年ごとの学習発表会 ○通信、HP等による 紹介